

事後評価調書(案)

I 事業概要																											
事業名	農業農村整備事業（地盤沈下対策事業）																										
地区名	ふくたがわ 福田川地区																										
事業箇所	みなとく 名古屋市港区																										
事業のあらまし	<p>本地区は、愛知県西部の名古屋市港区に位置し、二級河川福田川沿いに広がる 3,689ha の流域を対象としている。</p> <p>当地域は、満潮時に自然排水が利かなくなる低平地で、流域内の農地を湛水被害から守るため、1930 年代から 1960 年代にかけて 3 箇所の排水機場が順次整備された。</p> <p>こうした中、1950 年代半ばからの高度経済成長期に、地下水の過剰なくみ上げによって当流域を含む尾張西部地域で地盤沈下が著しく進行し、本地区の排水機場では、潮位の影響を受ける排水先の日光川と、地盤沈下により水位の低下した福田川との水位差の拡大や、ポンプ設備の老朽化により排水能力が大幅に低下した。</p> <p>加えて、都市化の進展等による降雨流出量の増加も相まって、豪雨時にしばしば農地や農業施設等に湛水被害が発生し、営農に支障を来しているばかりか、民家や公共施設などへも被害が及んでいた。</p> <p>このため、排水機場の更新整備による排水能力の増強により、湛水被害を防止し、農業経営の安定と県民生活の安全・安心を図ることを目的として、1992 年度から地盤沈下対策事業を実施し、2016 年度に完了した。</p>																										
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下等により機能低下した排水機場を更新整備し、農地、農業用施設及び公共施設等の湛水被害を防止する。 <p>（基準降雨量 336mm/3 日、1/20 年確率降雨量）</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>																										
事業費	事業費		内訳																								
	154.0 億円		■工事費 135.0 億円、 ■用補費 10.3 億円、 ■その他 8.7 億円																								
事業期間	採択年度	1992 年度	着工年度	1993 年度	完成年度	2016 年度																					
事業内容	排水機場 2 か所																										
II 評価																											
① 事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>事業完了年度からの 5 年間で、最大 3 日連続降雨量は 2017 年 10 月 21 日～10 月 23 日に 295.5mm を観測したが、農地や農業用施設、公共施設等の湛水被害は発生していない。</p> <p>降雨実績 （蟹江観測所降雨データ）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大 3 日連続降雨量</td> <td>336.0mm</td> <td>196.5mm</td> <td>295.5mm</td> <td>137.0mm</td> <td>110.0mm</td> <td>182.5mm</td> </tr> <tr> <td>（最大 1 時間降雨量）</td> <td>（54.1mm）</td> <td>（60.5mm）</td> <td>（61.0mm）</td> <td>（38.0mm）</td> <td>（37.0mm）</td> <td>（59.0mm）</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>最大 3 日連続降雨量は計画基準雨量以下であるが、最大 1 時間降雨量では計画以上の降雨量に対して農地の湛水被害は発生しておらず、本事業は地域の農業経営の安定と県民生活の安全・安心に寄与していると評価できる。</p>					区分	計画	2016	2017	2018	2019	2020	最大 3 日連続降雨量	336.0mm	196.5mm	295.5mm	137.0mm	110.0mm	182.5mm	（最大 1 時間降雨量）	（54.1mm）	（60.5mm）	（61.0mm）	（38.0mm）	（37.0mm）	（59.0mm）
	区分	計画	2016	2017	2018	2019	2020																				
	最大 3 日連続降雨量	336.0mm	196.5mm	295.5mm	137.0mm	110.0mm	182.5mm																				
（最大 1 時間降雨量）	（54.1mm）	（60.5mm）	（61.0mm）	（38.0mm）	（37.0mm）	（59.0mm）																					
2) 副次目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>—</p> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>—</p>																										

② 事業効果の発現状況

【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】

項目		再評価時(3回目) (2011)	実績 (2021)	備考
事業期間		1992～2015 (24年間)	1992～2016 (25年間)	
事業費 (億円)	工事費	139.8	135.0	
	用地補償費	10.3	10.3	
	その他	9.3	8.7	
	合計	159.4	154.0	5.4億円減
効果の 算定要因	流域面積	3,689 ha	3,689 ha	増減なし
	農地面積	1,407 ha	1,357 ha	50 ha 減
	宅地等面積	2,282 ha	2,332 ha	50 ha 増

【事業期間に対する評価】

雑工事等により事業期間を1年延長したが、計画期間内(2014年)から排水機場の運転が開始されていたため、期間延長による影響はなかった。

【事業費に対する評価】

工事費の積算精査及び工事の入札結果(請負差額)等により、事業費が5.4億円減で事業完了できた。

【効果の算定要因に対する評価】

再評価時(3回目)と比較して、流域内の地目に大きな変化はない。

排水機場の更新整備により湛水被害は発生しておらず、効果については、計画どおり発現していると評価できる。

③ 事業実施による環境の変化

工事施工にあたり、低振動、低騒音の作業機械を使用するとともに、生息する魚類が、工事箇所に入らないように注意して施工することにより、生活環境や自然環境への影響を抑えることができた。

III 対応方針(案)

今後の事後評価の必要性	主要目標が概ね計画通り達成されているため、今後の事後評価は不要である。
改善措置の必要性	主要目標が概ね計画通り達成されているため、改善措置等は不要である。
同種事業に反映すべき事項	工事中においても湛水被害防止に配慮するため、既設機場の排水機能を活かし、予備排水により降雨に備えるなどの対応が必要であった。今後同種事業においても、排水機場管理者と調整し、こうした対応を行うことが重要である。

IV 事業評価監視委員会の意見

V 対応方針